

長野県社保協ニュース <20-1>

2015年6月24日（水） 長野県社会保障推進協議会

<事務局>長野市高田 276-8 県労連会館 1階 TEL 026-223-1281・FAX 026-223-1291

<http://www.n-syaho.com> E-mail: naganosyahokyou1281@star.ocn.ne.jp

「医療・介護の関係者、患者、行政担当者の発言を聞き、収穫のあるシンポでした」（一般参加者）

「2025年めざした長野県の医療・介護を考える県民シンポジウム」開催（6/21）



長野県医療団体連絡会は、6月21日（日）松本市で「2025年めざした長野県の医療・介護を考える県民シンポジウム」を開催しました。シンポジウムには、政府が2025年までに全国の病床数を最大20万床削減、長野県には3600床の病床を削減する目標を公表する中で開かれ、病院や介護事業所の関係者や患者・利用者、県や市町村の担当者を始め、新聞でこの企画を知り参加したという一般市民など**255名**が参加しました。

シンポジウムは、県医労連執行委員長の小林吟子さんの主催者あいさつのあと、長野県の衛生行政の責任者である健康福祉部

衛生技監の山本英紀氏から長野県が構想している「今後の医療・介護の提供体制の将来像と課題」について基調講演がされました。山本氏は講演の中で、政府が発表した病床削減についても触れ、「政府発表の数値は、許可病床をもとに算出しているので」と前置きしながら「その可否も含め今後検討委員会で協議していきます」と発言。山本氏の基調講演を受け、健和会飯田中央診療所長で長野県民医連会長の熊谷嘉隆氏から、日本とキューバの医療の特徴を比較しながら、長野県の医療の特徴をのべ、飯伊地域での地域医療の実践など踏まえ、地域医療のあり方やシンポジウムへの課題提起がされ、五人のシンポジストによる意見発表がされました。

佐久総合病院診療部長の北澤彰浩氏から東信地域全体を視野に入れ、地域医療の中心的役割を果たしている佐久総合病院の状況を報告、続いて伊那市で在宅医療も精力的に展開している開業医野口修氏から在宅医療と介護の連携問題などについて発言、諏訪地域で中心的な役割を果たしている諏訪赤十字病院をバックに訪問看護を展開している諏訪赤十字訪問看護ステーション管理者の高橋光子氏から訪問看護実践の状況報告、地域包括ケア体制の中心的担い手として期待されている地域包括センターの主任ケアマネの塩原孝子氏からのケアマネ業務の実情の報告、患者・利用者の立場から長野県難病連の北沢和雄氏から難病患者の状況について報告がされました。

フロアーからは、歯科医療の重要性について御代田町の歯科医師、不透明な病床削減への不安や在宅患者の状況について松本市の病院長などから発言がありました。シンポに参加した参加者からは、「様々な立場からの発言を聞き、収穫があったシンポでした」「病床削減が言われている中で、在宅を含め医療・介護の連携が重要」「今後も継続的に情報発信した欲しい」などの積極的な感想や「課題や問題点をもっと鮮明にして欲しかった」などの意見もありました。